

開催の目的及び経緯

我が国は、高レベル放射性廃棄物の減容化・有害度低減や、資源の有効利用等に資する核燃料サイクルに取り組み、再処理やプルサーマル等を推進しております。本年4月に閣議決定されたエネルギー基本計画において、原子力は、安全性の確保を大前提に、ベースロード電源として位置付けられ、我が国において重要な役割を担うとしております。一方、原子力利用に伴い発生する使用済燃料の問題は、世界共通の課題となっております。この課題解決の幅広い選択肢を確保する観点から、高速炉や、加速器を用いた核種変換など、放射性廃棄物中に長期に残留する放射線量を少なくし、放射性廃棄物の処理・処分の安全性を高める技術等の研究開発を進める予定としております。

本シンポジウムは、一般の方を対象に、これまで我が国が進めてきた核燃料サイクル事業の状況を踏まえ、放射性廃棄物の低減に向けた取組みの現状と国際協力を視野に入れた将来の展望についてご報告し、理解を深めていただくことを目的に開催するものです。

概要

初日は、藤家洋一元原子力委員会委員長から、原子力のエネルギー利用と環境との調和についての基調講演に続き、軽水炉の核燃料サイクルや高速炉のサイクルに基づく各国の放射性廃棄物低減の取り組みについて紹介します。更に、長期的視点で、高速炉や加速器を用いた分離変換技術による放射性廃棄物の低減に関する研究の方向性や将来への期待について、国内外の専門家による講演を行います。最後にこれらの発表をもとに、原子力の利用と環境との調和に関する今後の展望についてパネル討論を行います。

二日目は、初日の議論を具体化するためのサイクル技術や核変換技術についての技術開発、研究開発の現状と将来についての発表を行います。これをもとに、パネル討論を行い、将来に向けた研究開発と国際協力の在り方について整理します。

参加方法

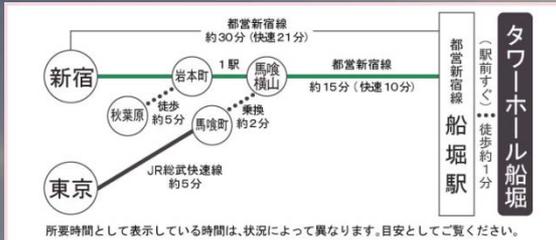
下記URLかQRコードのリンク先にて、**事前参加登録**をお願い致します。定員(240名)に達した場合、先着順とさせていただきます。当日参加も受け付けますが、事前参加登録を済ませた方を優先させていただきます。以上、予めご了承ください。会費については、**無料**です。

URL: <http://www.jaea.go.jp/news/symposium/RRW2014/>



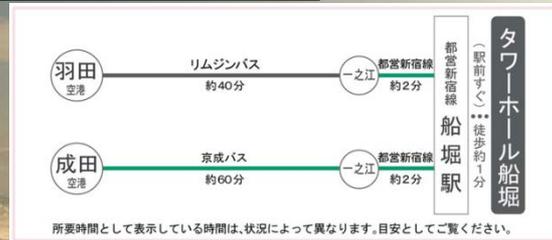
会場までのアクセス方法

電車をご利用の場合



- ・新宿駅より「都営新宿線」にて本八幡方面へ約30分。船堀駅下車、徒歩約1分。
- ・東京駅より「JR総武快速線」馬喰町駅にて乗換。馬喰横山駅から「都営新宿線」で船堀駅下車、徒歩約1分。

空港からバスをご利用の場合



- ・羽田空港からリムジンバスにて「都営新宿線」一之江駅前下車、「都営新宿線」にて新宿方面へ一駅約2分。船堀駅下車、徒歩約1分。
- ・成田空港から京成バスにて「都営新宿線」一之江駅前下車、「都営新宿線」にて新宿方面へ一駅約2分。船堀駅下車、徒歩約1分。

お問い合わせ先
主催者:
(独)日本原子力研究開発機構
〒319-1184
茨城県那珂郡東海村村松4-49
TEL: 029-282-5487 or 029-267-3713
E-mail: pt-symposium@jaea.go.jp
URL: <http://www.jaea.go.jp/news/symposium/RRW2014/>

会場:
タワーホール船堀
〒134-0091
東京都江戸川区船堀4-1-1
TEL: 03-5676-2211 (代)
FAX: 03-5676-2501
URL: <http://www.towerhall.jp/>

国際シンポジウム
放射性廃棄物低減に向けた現状と将来の展望
～ゼロリリースを目指して～

International Symposium on
Present Status and Future
Perspective for Reducing
Radioactive Wastes
- Aiming for Zero-Release -

平成26年10月9日, 10日

タワーホール船堀(東京都江戸川区船堀)

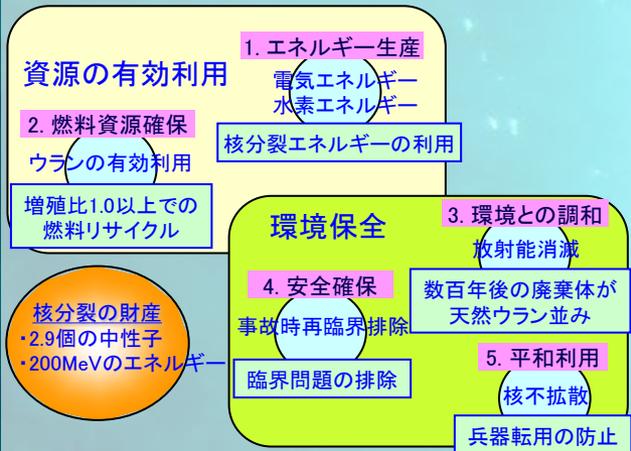
主催/ (独)日本原子力研究開発機構

協賛/ NPO ニュークリア・サロン

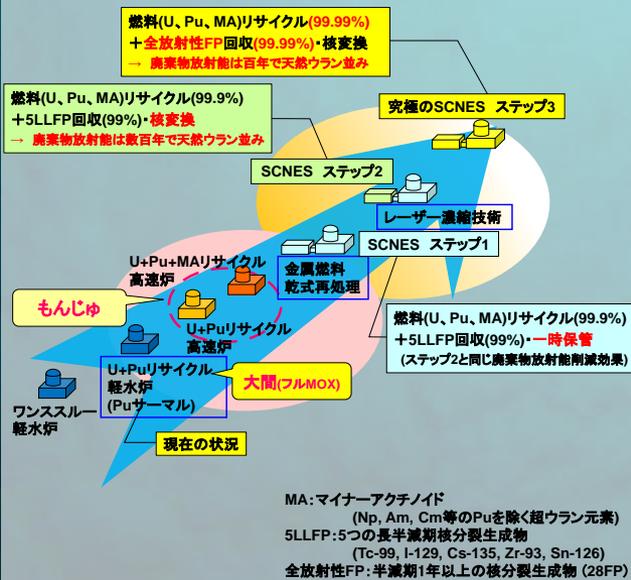
後援/ 文部科学省(予定)

※同時通訳あり

究極の原子カシステムでは、資源確保と環境保全の同時達成が可能。



自ら整合性のある原子カシステム:SCNES



放射性廃棄物の低減 -ゼロリリリースを目指して-

【1日目】10月9日(木)

「原子力の利用と環境との調和」

司会: 佐賀山 豊(JAEA)

- 開会式(10) 10:00-10:10
 - 開会あいさつ 松浦 祥次郎(JAEA理事長)
 - 来賓あいさつ (文部科学省)
- 基調講演(50) 10:10-11:00
 - 自ら整合性のある原子カシステム ~資源確保と環境保全の同時達成~ 藤家 洋一(NSF)
- 核燃料サイクルの取り組みと放射性廃棄物の低減(100) 11:00-12:40
 - 核燃料サイクルに関する民間の取り組み 田中 治邦(JNFL)
 - 高速炉の役割と「もんじゅ」への取り組み 青砥 紀身(JAEA)
 - フランスの取り組み B. Boullis (CEA, France)
 - アメリカの取り組み Y. Chang (ANL, USA)
 - インドの取り組み 調整中 (IGCAR, India)

(昼食) 12:40-13:40
- 将来の高レベル放射性廃棄物のさらなる減容化・有害度低減(80) 13:40-15:00
 - 高レベル放射性廃棄物の大幅な低減・資源化 藤田 玲子(JST)
 - SCNESによる放射性廃棄物の低減 小竹 庄司(JAPC)
 - 加速器による放射性廃棄物の低減 大井川 宏之(JAEA)
 - ベルギーMYRRHA計画への取り組み M. Schyns (SCK・CEN, Belgium)
- 原子力と地球環境(40) 15:00-15:40
 - Thermodynamics of Biological Energy System R. Radebold (Germany)
 - 地球温暖化と原子力 田下 正宣 (エネルギーシンクタンク)

(休憩) 15:40-16:00
- パネル討論(100) 16:00-17:40
 - 原子力の利用と環境との調和に関する今後の展望 モデレーター: 田中 伸男 (日本エネルギー経済研究所)

【2日目】10月10日(金)

「分離・回収と核変換技術の現状と将来」

司会: 佐賀山 豊(JAEA)

- 研究開発の現状と展望(第一部)(100) 10:00-11:40
 - 元素分離 森田 泰治(JAEA)
 - レーザーによる同位体分離 横山 啓一(JAEA)
 - 乾式再処理と金属燃料高速炉による分離・核変換技術 小山 正史(電中研)
 - 高速炉を用いた核変換技術 安部 智之(JAEA)
 - 加速器駆動システム(ADS)を用いた核変換技術 辻本 和文(JAEA)

(昼食) 11:40-13:00
- 研究開発の現状と展望(第二部)(80) 13:00-14:20
 - 東芝での取り組み 有江 和夫(東芝)
 - 三菱重工業での取り組み 森 行秀(三菱重工)
 - 日立での取り組み 日野 哲士(日立)
 - 京都大学における取り組み 卞 哲浩(京大炉)

(休憩) 14:20-14:40
- パネル討論(120) 14:40-16:40
 - 将来に向けた研究開発と国際協力 モデレーター: 高木 直行(東京都市大)
- 閉会式(5) 16:40-16:45
 - 閉会あいさつ 吉田 信之(JAEA理事)



もんじゅ



核変換実験施設の建設予定地

大強度陽子加速器施設J-PARCと核変換実験施設の建設予定地